

【研究ノート】

現代教養学部におけるキャリアデザイン教育**——「キャリアデザイン」の開講とその効果——**佐藤 寛¹⁾ 齋藤 大輔²⁾**1. はじめに**

中央学院大学現代教養学部は平成 29 年（2017）に開設した新しい学部である。歴史の浅い学部であり、今春で第 3 期生の卒業生を社会に送り出すところである。

学生にとって就職は、人生の重大な課題の一つである。この重大な課題に対して、本学のスローガンである“STAND BY YOU”のもと、本学部においても、その精神の姿勢で学生に接し、将来学生が社会人として問題解決能力やジェネラリスとしての能力を身に付けて社会参画や社会貢献、社会で活躍できる人材育成に努めなければならない。

本報告は、本年度初めて現代教養学部に開設した「キャリアデザイン」の開設趣旨と授業概要、企業からの授業および「学生へのキャリアデザイン授業アンケート」と「キャリアデザイン授業参加企業へのアンケート」等を含めて、本学部におけるディプロマポリシーへの対応や今後の学生への就職対策の一環としてまとめたものである。

本報告は、資料以上のものではないことをお断りしておく。

2. キャリアデザイン授業概要

今回のキャリアデザイン科目の開設に当たり、履修者数を 50 名に限定し 3 年生 40 名、2 年生を 10 名程度とした。多くの学生から履修の希望者が

¹⁾ 本学現代教養学部長・教授

²⁾ 本学現代教養学部准教授

あったが、最終的には49名（3年生37名、2年生12名）の履修者でスタートした。本科目の概要は下記の通りである。

令和4年度のキャリアデザインのシラバスには、下記のように記している。

【授業の内容】

授業科目名：キャリアデザイン 開講期間：春セメスター／前期

単位数：2単位 学年：2～3年生

区分：専門基礎

【授業の到達目標】

授業は就職についての総合的な視点から学生が就職選択時に指針となることを達成目標とする。各担当は業界人事担当者を講師に招き、就職についてより精通する。

【ディボロマポリシーとの関係】

就職選択は人生にとって重大な選択である。各自の就職に対する興味や能力など照らして、将来の人生設計を考慮しながら、コミュニケーション・スキル、自己管理能力等を鑑みて、将来の職業を選択する指針を極めること。

【身につく就業力】

③コミュニケーション・スキル ⑧自己管理能力 ⑨チームワーク・リーダーシップ ⑫生涯学習力

【授業の概要】

授業は各業界の人事担当者や社長などによる業界の状況について述べる。また、就職のためのグループディスカッション、インターンシップの体験の講話や模擬面接などの実践的な練習も行う予定。

【学生が到達すべき行動目標】

学生は各業界の状況を把握して、将来の職業選択のために積極的に自ら行動すること。各自はインターネットや業界誌などを利用して情報を収集すること。

【特記事項（履修に必要な予備知識や技術）】

授業の性質から遠隔受講者は履修不可とする。

【テキスト・参考書・参考資料等】

なし

【学生に対する評価】

課題に対して、十分熟知してレポートを提出する姿勢によって評価する。

3. 授業内容

キャリアデザインの授業をより充実させることを目的に、【授業の概要】で示したように、業界の状況を把握するために、我孫子市の青木章 副市長からは「これからの社会に求められる地方公務員とは？～豊かな人間性の涵養を～」、スターティア株式会社の笠井充 社長様には「社長の私が『今』皆さんに伝えたいこと」、元銀行員・マブチモータ元社員の勝原尚美 様には「海外で働くというのはどういうことかーベトナムでの経験を中心にー」をテーマに特別講演を行って頂いた。

また、企業からは神奈川トヨタ株式会社、株式会社クレスコ、スターティア株式会社、内外日東株式会社、株式会社マースエンジニアリング、八洲電機株式会社、山本商事株式会社等の各社の総務・人事部担当の方がインターンシップの概要、実践、グループディスカッション、模擬集団面接など実践と同様な形で行って頂いた。授業をスムーズに遂行するために学生を班別に分けて行った。

各企業の方々からは各企業のカラーを出していただき熱心な姿勢で丁寧な授業を行って頂いた次第である。その中の一つに「グループディスカッション」の授業では、ある班のテーマは「桃太郎に1匹動物を追加するなら」が出された。また、ある班では「ホテル料理」のテーマが出された。学生にとっては想像もしていないテーマで戸惑いながらもそれらの間について多くのことを学んだようである。これらのグループディスカッションの授業を通して、リーダーの役割や思考力、伝える力、聴く力、想像力、協調性、時間

管理等企業ならではの志向で進められたことは、今後の就職活動に大いに活用したいと学生からの課題レポートに多く寄せられた。

今回のキャリアデザインの授業を受けた学生からは「就職に対する意識が手探り状態」や「何から始めればいいのか」の疑問点や「自分の将来と就職等について取り組む心構えや姿勢が出来た」との声が多く寄せられた。本授業の目標であった、就職についての総合的な視点から学生が就職を選択する指針を極めることや将来の職業選択のために積極的に自ら行動をとることなどは、本科目の履修生がインターンシップへの参加や企業訪問に至った学生が多く現れたことは自ら積極的な行動をとったことであり、本科目の到達目標の証であり、到達目標が達成されたものと考えられる。

本科目における学生および参加企業に対する授業アンケートを実施した。その結果を付録に「学生へのキャリアデザイン授業アンケート結果」および「キャリアデザイン授業参加企業へのアンケート結果」として添付する。

4. おわりに ―「キャリアデザイン入門」の開設へ

今回のキャリアデザイン授業終了後に、教職員や学生から多くの意見や質問が寄せられた。履修者数の限定や2年生と3年生では就職に対する意識の相違と就職までの期間等の意見をいただいた次第である。筆者も授業を通して上記のような意見を感じていたことも事実である。このような意見を踏まえて、新に令和5年度(2023)の秋セメスターから「キャリアデザイン入門」を開設する。2年生のみの履修者数制限なしで開設し、また、「キャリアデザイン」は今年度と同様に春セメスターで、次年度からは3年生のみで、履修者数制限なしで科目を継続する。

「キャリアデザイン入門」の概要は下記の通りである。

授業科目名：キャリアデザイン入門	開講期間：秋セメスター／後期、
単位数：2単位	学年：2年生

区分：学問の基礎知識。

「キャリアデザイン入門」の科目を開設する結果となったことは、学生に

としては2年生での入門では就職に対する意識を高め、3年生では実践的な授業を習得して就職のための知識を十分に活かし、4年生では万全な対策で就職活動に臨んでほしい。2年生時に「キャリアデザイン入門」3年生時に「キャリアデザイン」の科目を設け、人生にとって大きな課題である就職に対して高揚な意識を持って臨むことを学生に期待したい。

また、同時に教授法も世界の政治・経済が激しく変動する中で、絶えず国際情勢は変化していることを十分に把握し、就職状況の動向に注視しながら常に新しい就職情報や就職システム等を習得して、最新の就職情報に基づき質の高い授業に努めながら意義のある授業を行うことに努力しなければならない。

謝辞

今回のキャリアデザインの授業に対して、青木章 我孫子副市長様、スターティア株式会社の笠井充社長様、勝原尚美 様には、特別講演をいただいた次第である。

下記の企業の方々には数回に渡り授業を行って頂いた次第である。

- | | |
|-------------------|----------------|
| ・ 神奈川トヨタ株式会社 | 福田弘明 様、堀江まゆみ 様 |
| ・ 株式会社クレスコ | 井上隆志 様、松下龍之介 様 |
| ・ スターティア株式会社 | 恩部正樹 様 |
| ・ 内外日東株式会社 | 手島 歩 様 |
| ・ 株式会社マースエンジニアリング | 阿部 遼 様、井上綺理 様 |
| ・ 八洲電機株式会社 | 武田秀理 様 |
| ・ 山本商事株式会社 | 富士原亮介 様、佐藤正太 様 |

そして、野川知紀 様（日経メディアプロモーション株式会社セールスユニット サブスクリプションG 課長）には、キャリアデザイン科目開設時からいろいろとアドバイスをいただき、また、本授業に参加していただいた企業様の紹介や全授業毎に参加していただくなど多くの指導を賜った次第である。

学内からは、就職部の海老澤勝利 次長、中村憲司 課長、入山弘章 課員に

は業務を兼ねながらお忙しいところ快くご協力を頂いた。就職部による授業では業界研究や履歴書の書き方、インターンシップのエントリーの仕方等について数回にわたり授業を行って頂いた次第である。

以上の方々のご協力により、お陰様で多くの学生からは授業に対して満足度の高い評価を得た。これを機に今後は、より一層研鑽をして、学生により良い満足のゆく授業を行ってゆく所存である。

今回のキャリアデザインの科目開設で上記の方々からは、大変お忙しいところ時間を割いていただき、多大なるご協力を賜り謹んで感謝申し上げます。

また、キャリアデザイン授業に参加いただいた企業の方々には大変お忙しいところアンケートにご協力をいただいたことを心より感謝申し上げます。

付録

<学生へのキャリアデザイン授業アンケート結果>

キャリアデザインが開設され、授業の効果を調べるために第15回目の授業において学生にアンケートを行った。このアンケートでは、「授業受講前後での不安要素の変化」、「この科目の良かった点、印象に残っている点」、「この科目による学習成果」、「希望業種と学生が興味をもった参加企業」および「学生の満足度」についてアンケートを行った。以下に、各内容についての結果を示す。

・授業受講前後での不安要素の変化

本科目を受講していた学生の受講前後での不安について図1に示す。図1は、受講者に自由記述で受講前後における不安要素を回答させ、筆者により情報不足（就職活動への情報不足による不安）、適職がわからない（やりたい仕事かわからないあるいは適職がわからないことへの不安）、準備・対応（履歴書やエントリーシートの書き方、面接およびグループディスカッションへの準備や対応への不安）、インターンシップ（インターンシップの選び方や参加の仕方がわからないことへの不安）、就職できるか（就職できるか

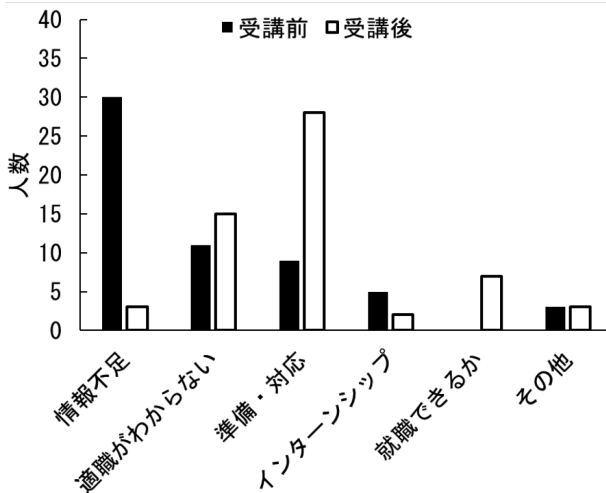


図1 受講前後での不安（自由記述・複数回答可）

どうかの不安) およびその他の不安の6要素に分類し集計した結果である。図1によると、受講前は情報不足(30名)、適職がわからない(11名)、準備・対応(9名)、インターンシップ(5名)および就職できるか(0名)となっており、就職活動に対する情報が不足しているあるいは何から始めたらよいかわからないことに不安を感じている学生が多かった。しかし受講後は、情報不足(3名)、適職がわからない(15名)、準備・対応(28名)、インターンシップ(2名)および就職できるか(7名)となり、就職活動への情報不足は解消され、自分の適職がわからないことへの不安、履歴書やエントリーシートの書き方、面接やグループディスカッションへの準備や対応への不安が増加している。これは、授業内で就活への情報が得られ、授業への協力企業により模擬面接やグループディスカッションを実際に体験したことにより、就職活動においてどの点がみられているのかといったポイントを学習した結果による変化である。また、受講前には就職できるかという不安をもっている学生はいなかったが、この科目を受講したことにより、たくさん

のことを準備しなければならないことに対して不安を抱く学生が出てきたのではないかと推察できる。特に、履歴書やエントリーシート、面接やグループディスカッションで自己アピールすることが苦手な学生は、就職活動に対して不安を感じている傾向がみられた。

この授業による学生の就職活動への不安がどの程度解消されたかを図2に示す。図2によると、65%の学生に関しては不安解消に役立ったといえる。

・この科目の良かった点、印象に残っている点

本科目を受講して、学生がよかったと感じた内容について図3に示す。図3は、受講者に自由記述でこの授業を受講して良かった点を回答させ、筆者により分類し集計した結果である。図3によると、情報収集、面接対策、グループディスカッションおよび人事担当者の話に関して学生がよかったと感じていた。さらに、印象に残った内容を図4に示す。図4は、図3と同様に受講者に自由記述でこの授業を受講して良かった点を回答させ、筆者により分類し集計した結果である。図4によると、面接対策およびグループ

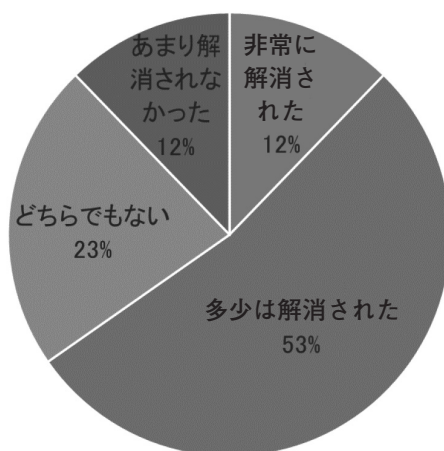


図2 受講による不安の解消度

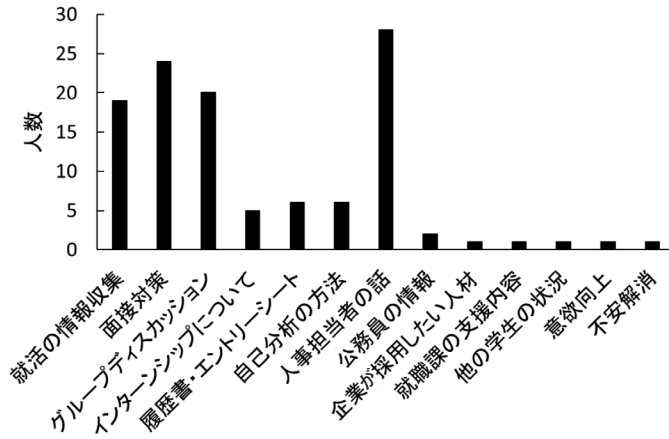


図3 この授業を受講して良かった内容（自由記述・複数回答可）

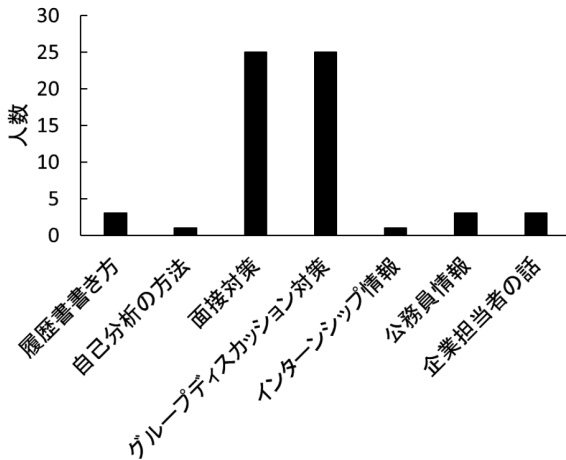


図4 印象に残った内容（自由記述・複数回答可）

ディスカッション対策が学生にとって印象に残っていることがわかる。図3および図4より、面接対策およびグループディスカッション対策においては、企業の人事担当者が実施した内容であり、本科目において学生と企業の

人事担当者とのやり取りが非常に有効であり、学生の就職活動の意識に変化を与えたと考える。

・この科目による学習成果

本科目を受講した学生自身の学習効果がどの程度あったかを、学生自身に自己評価させた。自己評価は、本科目で実施した、自己分析の方法、履歴書の書き方および面接対策について5段階で評価させた。自己分析の方法、履歴書の書き方および面接対策についての自己評価結果をそれぞれ図5～7に示す。

図5によると、自己分析に関しては、55%の学生がやり方を理解でき、自己分析に関しては一定の学習効果が得られた。しかし、自己分析は数回の授業でできるようになるものではなく、時間をかけ自分自身を分析していく必要があるため、これをきっかけに自己分析ができるようになっていくことを期待したい。

図6によると、履歴書の書き方においては84%の学生が書き方を理解で

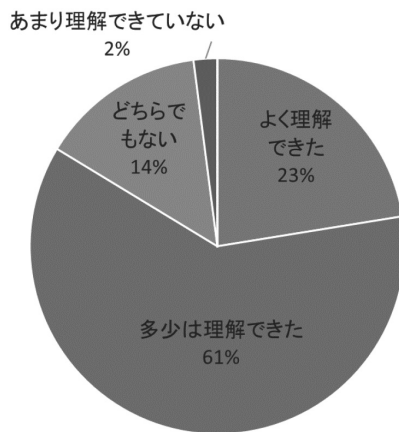
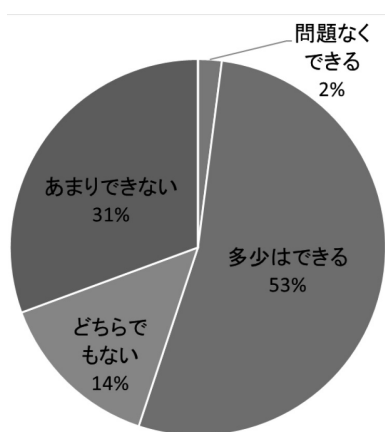


図5 自己分析の方法における自己評価 図6 履歴書の書き方における自己評価

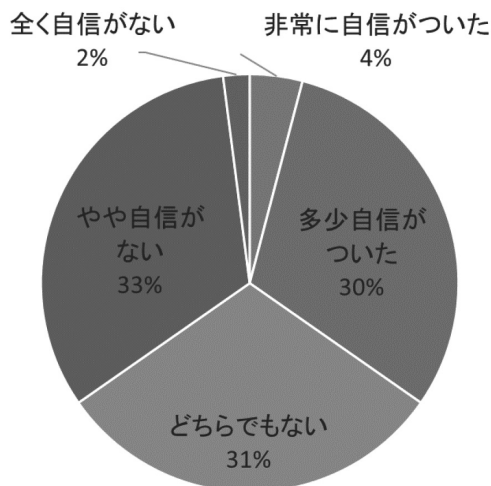


図7 面接対策における自己評価

きており、履歴書の書き方においては、非常に効果を上げたと考える。

図7によると、面接対策においては34%の学生が面接に自信を持てるようになっていた。面接対策においても授業内では2回と回数に限りがあったため、まだまだ面接対策に自信の持てない学生も多くみられた。面接においても模擬面接や本番の回数を重ねることにより自身が持てるようになっていくものであることから、これをきっかけに面接においても回数を重ね、自信を持てるようになっていくことを期待したい。

これらの成果をより上げるためには、就職課での指導も重要であり、この授業内においても就職課の職員によりサポートしていることが案内されていたことから、学生には就職課を有効に活用できることも学習できたと考える。

・希望業種と学生が興味をもった参加企業

今年度、本科目を受講した学生が就職先として希望している業種を図8に示す。図8によると、サービス業（18名）、公務員（8名）、卸・小売業（4

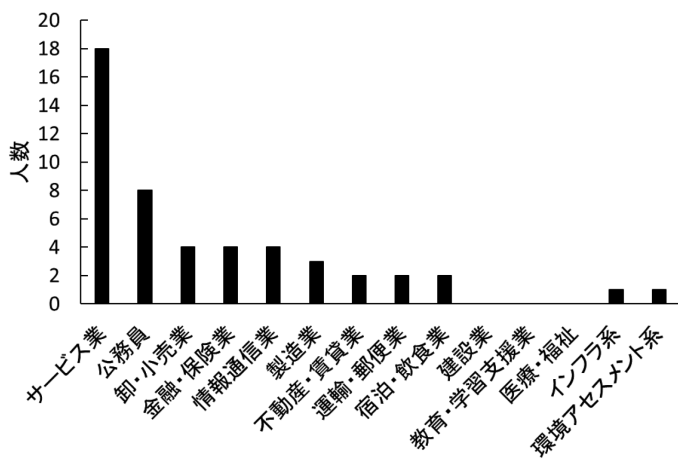


図8 就職先として希望している業種

名)、金融・保険業(4名)、情報通信業(4名)、製造業(3名)、不動産・賃貸業(2名)、運輸・郵便業(2名)、宿泊・飲食業(2名)、インフラ系(1名)および環境アセスメント系(1名)という結果であった。受講学生の多くはサービス業を希望していることがわかる。これは、2020年度および2021年度の卒業生と同様の傾向である。

さらに、本科目に参加した企業で学生が興味をもった企業について図9に示す。図9は、授業に参加した企業において興味があった企業(複数回答)、最も興味があった企業およびインターンシップを検討したい企業についての回答をまとめたものである。図9によると、学生の多くが興味を抱いた企業は、スターティア株式会社(31名)および神奈川トヨタ株式会社(22名)であった。その他の企業においても10名程度の学生が興味を持っていた。図8によると多くの学生がサービス業を希望していたが、授業において各企業の人事担当者から業界状況についての話を聞き、希望業種以外の企業にも興味を抱き、就職活動の幅が広がったものと考ええる。さらに、インターンシップについても神奈川トヨタ株式会社とスターティア株式会社においては

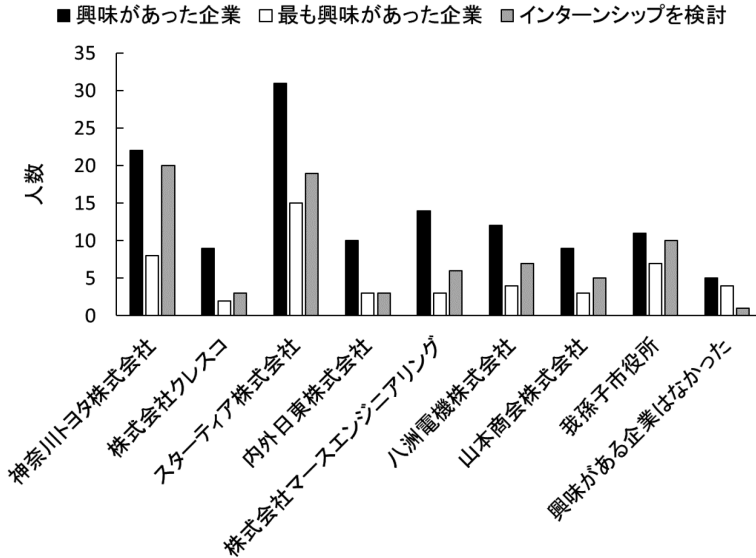


図9 学生が興味を持った参加企業

参加を検討している学生が多くみられた。最初から業種を絞ってインターンシップに参加するよりも、様々な業種のインターンシップに参加し、その中から自分に合う職業を見つけることも重要であることから、学生がインターンシップの参加に積極的になったと考えられる。

・学生の満足度

最後に、この授業の学生の満足度を図10に示す。図10は、学生の授業に対する満足度について5段階で評価させたものである。図10によると、45%の学生が非常に満足であったと回答し、多少は満足であった(51%)と合わせると、96%の学生がこの科目に対して満足であったと回答した。本科目は、就職活動のやり方、自己分析の方法、履歴書の書き方、エントリーシートの書き方、インターンシップの情報、業界状況、グループディスカッション対策、面接対策等、学習内容の多い授業ではあったが、学生の就職活

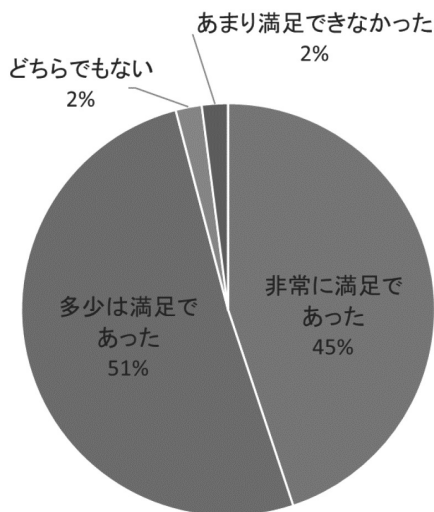


図 10 学生の満足度

動に対する意識に変化が現れ、自分の将来や就職活動に真剣に向き合うきっかけとなったと考える。以上のことから、学生にとって本科目が満足いくものであったと考える。

＜キャリアデザイン授業参加企業へのアンケート結果＞

キャリアデザインが開設され、この授業では業界研究、グループディスカッションおよび模擬集団面接において、7社に協力いただき授業を実施した。協力いただいた企業に対して、「キャリアデザインでの狙い」、「学生の受講態度」、「学生の能力」、「授業との学生の反応」、「受講学生を採用したいか」、「参加した感想」および「企業からの要望」についてアンケートを行った。以下に、各内容についての結果を示す。ただし、アンケート結果には企業情報が含まれる可能性があることから、具体的な企業名は伏せて示す。

表1 授業の狙いとその達成度

会社名	授業の狙い	達成度
A 社	第一印象がとても大事であるということ。 グループディスカッションでは、結果だけでなく経過も大事であり、さらに各々がどのように取り組んだのかがわかるようにすることが大事であること。 面接では、自分の強みをどのように見つけ、どのように表現することができるのかが大事であり、自分に自信をもって伝えることが大事であること。	50%
B 社	早期に企業人とコミュニケーションをとることを伝えたい。 グループディスカッションと面接では、失敗を恐れずにまずは経験してもらい、次につなげるためのPDCAが大切であること。	90%
C 社	面接担当は敵ではなく、皆さんのことを知りたいから色々と質問をすること。 コミュニケーションの難しさと質問の大切さを肌で感じてもらいたい。	65%
D 社	授業参加前後で何かしらの成長や、気付きを感じてもらいたい。 グループディスカッションは、トライ&エラーで基礎を理解してもらいたい。 面接では、考えてきたことを話すだけではなく、自己分析の重要性を理解してもらいたい。	75%
E 社	社会人になることや就職活動は特別なことではないということ伝えたい。 グループディスカッションでは、自分の意見を皆の前で話せるようになってもらいたい。 面接では、恐れずにやってみて、失敗から学ぶ姿勢を身に付けてもらいたい。	80%
F 社	面接の多様化、見ている視点は企業によりさまざまであること。 一貫性を持ち、自身の思考を企業に伝えられるようになること。 学生への惹きつけと特別フローでの選考の案内から採用実績を作る。	90%
G 社	就職活動の事前準備として、心構えやマナーなどの基礎を学んで欲しい。 伝えたいことが伝わる面接ができるようになってもらいたい。	80%

・キャリアデザインでの狙い

本科目に参加するにあたり、授業での狙いとその達成度を表1にまとめる。表1によると、企業ごとに様々な狙いを持って参加していただいております。社会人になることへの準備・心構え、グループディスカッションや面接をうまく行うためにどのようにしたらよいかということに重きを置いて授業を行っていただけたことがうかがえる。また、達成度は厳しい採点の企業もみられるが、7社中5社が75%以上であり、企業の担当者の方も大方の狙いは達成できていた。

・学生の授業態度

参加企業の方からみた受講学生の授業態度について、表2にまとめる。表2によると、参加企業の方々が感じていたのは、学生が大人しく受け身であると感じた企業が多くみられた。学外の企業の方と話をする機会はあまりなく、人見知りしているということも考えられるが、慣れてくると話せるとい

表2 学生の授業態度

会社名	授業態度
A 社	学生により熱意に差が感じられた。 授業に対して明確な目標をもって参加するとよりよい。
B 社	大人しいというのが第一印象であったが、コミュニケーションが深まると言葉に出して言えるようになって感じた。
C 社	学生同士で話すのは申し分ないが、大人との会話に消極的であると感じた。
D 社	前向きに行動できている学生が多いと感じた。 準備不足の学生も見られたが、学ぶ姿勢がみられた。
E 社	慎重な性格の学生が多いと感じた。
F 社	特に気になる部分はなかったが、受け身な学生が多く見られた。
G 社	意欲的な学生が多いと感じた。

う指摘にもある通り、大人と話せないのではなく、話す機会があまりないことが要因であるとする。また、学生の学習意欲を感じている企業も複数あることから、授業ごとに明確な目標を学生に持たせ授業を受けさせるとより学習効果も上がるものとする。

・学生の能力評価

今回の授業においては、主にグループディスカッションと集団面接を行っていただいた。集団面接の際には、事前に作成した履歴書を用いて模擬面接を行った。そこで、履歴書の書き方、自己PR能力、グループディスカッションおよび集団面接についての学生の能力を評価してもらった。その結果をそれぞれ表3～6にまとめる。

表3によると、履歴書の書き方においては、学生の準備状況に差があり、現状では及第点といったところであるが、まだまだ改善点は多くあり、今後指摘される内容をどのように反映していくかが重要であるとの指摘であっ

表3 履歴書の書き方の評価

会社名	履歴書の書き方の評価
A 社	履歴書を読み込む時間がなかった。 字はきれいでも雑に書いてはダメ、字が汚くても丁寧に書くように心がけること。 手書きで書くのであれば、丁寧に書くべきである。
B 社	履歴書の準備状況に差があった。
C 社	この時期では仕方ないレベルであるが、これから指摘を受けていかに吸収するかである。
D 社	見た履歴書は基本的な書き方はできていた。
E 社	自分が書きたいことを書いている印象であったので、相手が何を知らたいかを意識して書けるとよい
F 社	特に問題なし。
G 社	就活前であるにもかかわらず、思いが伝わってくるものが多かった。

表4 自己PR能力の評価

会社名	自己PR能力の評価
A社	準備をしてきた学生ほど覚えてきたことを一生懸命伝えようとしていた。生きた言葉に感じなかったので、自分の経験に自信を持ち、どのような成長をしたかを伝えられるとよい。
B社	自分が準備したことを半分も話せなかったと感想があった。
C社	現時点では及第点であるが、本番の面接では厳しいという印象。
D社	何かをアピールすることはできていたが、自己分析が足りていない学生が多い印象。 話し方では、結論から順序だてて話すことができる人が半分くらいである印象。
E社	何をPRしたらよいかわからないまま行っていた印象。
F社	インターンを経験している人は就業経験の感覚がつかめているように感じた。 経験を活かし社会人像を目指しているのかイメージできるとよい。
G社	それぞれの強みがあるので、それを研ぎ澄ませてもらいたい。

表5 グループディスカッション能力の評価

会社名	グループディスカッション能力の評価
A社	役割分担は重要であるが、自分の役割だけをこなすのでなく、みんなで意見を出し合えるとよいと感じた。
B社	準備不足の学生もいて、コミュニケーションの濃淡があった。
C社	<グループディスカッション不参加>
D社	慣れてくると意見を出せるという印象。 まとめようとする人がおらず、謙虚であった。
E社	作法通りの流れを必死になぞっており、ディスカッションの目的を見失っている印象。
F社	グループに入り込めるチャンスを失った方、やり方が分からない、で思考停止している方が少々見られました。 前のめりな方だけで議論が深まるようになっていた。 様々な視点を持った方がおられ私自身も勉強になりました。
G社	主体的に発言できる方が多くいた。

表 6 集団面接の対応能力評価

会社名	面接の対応能力の評価
A 社	準備した内容を伝えようとするが、深掘質問をするという回答が返ってきた。 受け答えはしっかりと応えられているという印象。 準備したものを丸暗記するのではなく、生きた言葉で話せるようになるとよい。
B 社	準備不足の学生もいて、コミュニケーションの濃淡があった。
C 社	質問に慣れていないという印象。 大人と話す機会を増やし、考えを伝え、質問に答えることを繰り返すとよい。
D 社	自己PRについて質問し、会話になるとぎこちなさなくなる学生が多かった印象。 自己分析をして自分自身の話しに自信を持ち、面接に慣れることで良いアピールができるのではないかと期待できる学生が多いと感じた。
E 社	答えようと頑張っているが、途中であきらめてしまう傾向が見受けられた。
F 社	お題への準備はしっかりとしている印象。 質問に対しての回答は詰まる人が多かったので、面接の準備としては課題があると感じた。
G 社	質問に対して自身の言葉で一生懸命回答する姿勢に好感を持った。

た。内容以外では、「履歴書は丁寧かつ字をきれいに書く」、「自分が書きたいことではなく、相手が何を知りたいかを意識して書く」といった改善点が示されていた。しかし、今回の授業では集団面接練習時に確認してもらっただけであり、履歴書を事前に確認してもらうことも次年度以降は検討する必要がある。

表4によると、自己PR能力においては、準備してきた内容を暗記しそれを一生懸命伝えようとしているという傾向が強いという評価であった。また、何をPRしたら良いかわからない学生もいたということから、自己分析が不足しており、それぞれの強みを研ぎ澄ませることが必要であることが示

されていた。

表5によると、グループディスカッション能力においては、役割を決め、その役割のみをこなせば良いのではない、型にはめ込むことに必死になりみんなで議論するということできていない、準備不足の学生はディスカッションに参加できていないという評価であった。しかし、慣れて関係性ができてくると意見が出せるようになっていたということであった。ディスカッションに関しては、自分の役割をこなすだけでなく、みんなで意見を出し合えることが理想であり、うまく議論を進行しまとめ役になれるとディスカッションがうまくいくことが示されていた。

表6によると、集団面接の対応能力については、自己PRと同様で準備し覚えてきた内容を伝えようとするが、質問になれておらず、会話になるとごちなくなる傾向があることが示されていた。面接においては場数を踏み、面接になれることが必要であること、さらに大人と話す機会を増やし、質疑を繰り返す必要性が示されていた。さらに、暗記するのではなく、生きた言葉で話せるようになることも示されていた。

以上のことから、企業としての学生の能力評価としては、まだまだ準備不足ではあるが、一生懸命やっているという評価ではないかと考える。今回得た情報を学生自身が今後の就職活動に生かしてもらいたい。また、様々な指摘があったことから、この情報を就職課と共有し、学生の就職活動指導に活用していきたい。

・授業後の学生の反応

学生と企業とのつながりができたかを確認するため、授業終了後に学生から直接問い合わせやインターンシップへの参加があったかを表7にまとめる。表7によると、授業後に問い合わせがあったと回答した企業は3社（B社、F社およびG社）あり、6件の問い合わせがあった。また、授業中にもインターンシップの案内も行ってもらったが、実際にこの授業を受講した後にインターンシップへの参加があった企業が3社（A社、B社およびG社）

表 7 授業後の企業への問い合わせ

企業名	授業後の問い合わせ	インターンシップへの参加
A 社	0 件	1 名
B 社	2 件	2 名
C 社	0 件	0 名
D 社	0 件	0 名
E 社	0 件	0 名
F 社	3 件	0 名
G 社	1 件	1 名

あり、4名の学生が実際にインターンシップに参加した。参加した企業へ興味を持つ学生が現れ、インターンシップへの参加につながったというのも、この授業の効果のひとつといえる。ここから、採用へとつながっていくことを期待したい。

・受講学生を採用したいか

今回企業に実施したアンケートにおいて、今回授業を受けていた学生の中で、採用したいあるいは気になる学生がいたかを伺ったところ、7社中5社（A社、B社、D社、F社およびG社）において採用したいあるいは気になる学生がいるとの回答を得た。授業を通じて、学生と企業との関係を持たせ、採用へとつながる可能性があることが示された。特に、F社においては、表1のこの授業での狙いに「学生への惹きつけと特別フローでの選考の案内から採用実績を作る。」とある通り、この科目を通じて特別フローでの選考を検討している企業もみられた。

・企業の感想

参加企業の方に、この授業に参加した感想を伺った。各企業の感想を表8にまとめる。表8によると、各企業において様々な感想であったが、就職活

表8 参加企業の感想

会社名	面接の対応能力の評価
A 社	当社にとっても、就職活動が本格化する前の、選考の意欲を持たない学生と接することはとても貴重な経験で、多くのことを学ばせていただきました。今の学生がどのような物差しで企業選びをして、どのようなビジョンを持って社会に出ていこうとしているのかを知ることができました。
B 社	この度は、貴重な機会をいただき、ありがとうございます。お伺いした時期は、「これから」という学生さんの動きに、弾みをつける良いタイミングであったと思います。準備をしたつもりで参加をしたがうまくいかず、がっかりした学生さんが多くいましたが、それに早く気づいていただくことが、この時期に大切なことだと思います。参加された皆さんは、今後の就職活動にこの時の気づきをうまく生かしているのではないかと思います。
C 社	早期の段階から就活に危機感を持った学生と接点を持てるのはありがたいです。こういった活動を通じて業界に興味を持っていただけると非常にうれしく思います。
D 社	この度はキャリアデザインの授業に参加させていただきありがとうございます。スポット参加ではなく、続けて参加することができたため、学生の成長を目の当たりにする機会が多くありました。そのような場面が多かったのも、素直で真面目な学生が多く、アドバイスしたことを吸収してくれたからだと思います。おかげでこちらも教えることが楽しく、もっと吸収してもらいたいと思ひ話しが長くなってしまったこともありました。会社で実施されるイベントとは異なり、比較的にリラックスした状態の学生を見ることもできたため、色々なリアルな意見を聞けたのも参加してよかった理由のひとつです。
E 社	学生のリアルをうかがい知ることができ、採用戦略を考えるうえで良い材料を得られたと感じている。
F 社	今年度は授業への参加させていただいた上に、貴重な時間を使わせていただき、社長講話までありがとうございます。私たちにできることは、学生の皆様の選択肢を広げられるよう、自社と業界、就活、選考を伝えることだと思ひ参加しております。そして、その中でも弊社に興味を持った方には是非、会社説明会や選考にもお越しいただき、採用実績を作り、貴学とのご縁も強く持つていくことを目標に活動しております。まだまだ弊社にできることは限られておりますが、貴学学生の方々のキャリアに少しでもお力添えができるよう、これからも何かご要望やご意見がありましたらご相談いただけますと幸いです。また、学生の皆さまはコロナ禍で学生生活も制限された中での就活ということで、なかなか自己PRをしづらい、体験ができていない方も多くおられ、ますます、キャリアデザインの需要が高まると思います。参加させていただいている身として、先生のお考えになっていることを私も理解し学生に言葉を届けたいと思っております。私は学問として、お伝えすることはできませんが自身の経験と一企業の人事として学生にお伝えすることはできます。この強みをより授業で活かしていけるよう、私自身も今後先生方と連絡を取り合い理解を深めていきたいと存じております。
G 社	前のめりに参加している学生が多く、毎回楽しく参加させていただきました。

表9 参加企業からの要望

会社名	面接の対応能力の評価
A 社	グループディスカッションや模擬面接は毎回違う組み合わせで行うとよい。 インターンシップに実際に参加して、報告会を行うのも面白い。
B 社	履歴書やエントリーシートの書き方を行うとよい。 参加者の情報を事前に確認できるとよい。
C 社	特になし。
D 社	グループごとの担当企業を固定した方が成長しているかどうかかわかるので良い。 その反面、視野を広げるという観点では今回のように毎回別の企業の対応で良い。 事前に履歴書をもらえると履歴書に関するフィードバックもできるのではないか（企業側の負担が大きくなるので、判断が難しい）。
E 社	もう一度同じ方法で実践し、手ごたえを確認したい。
F 社	面接練習は、自己PR、ガクチカなどお題を区切らずに面接を行いたい（ガクチカや自己PRは面接で区切ることはなく、面接で一連の流れに一貫性をもった話を学生ができるとうい）。
G 社	特になし。

動が本格化する前の学生との接点を持つことが貴重な経験であり、新たな発見や情報収集ができたといった感想があったことから、授業に参加することで企業側にもメリットがあったことが示されていた。

・企業からの要望

この授業に関して、参加企業に要望があるか質問した結果を表9にまとめる。表9に挙がっている要望に関しては、今後の授業改善として取り入れていき、より円滑な授業進行ができるよう対応していきたい。